

### 1-2-3 公共交通（JR・地下鉄・バス・市電）

#### (1) 公共交通の利用人員の推移

公共交通 とくにバスの利用者数が大幅に減少。

- ・地下鉄の利用人員は横ばいで推移している。
- ・JRは高架化・中間駅の設置・複線化に伴い利用人員を伸ばし、近年も増加傾向にある。
- ・路線バスと路面電車は利用者数が減少している。

#### <地下鉄等の整備経緯>

南北線(北24条～真駒内) :	1971(S46)
東西線(琴似～白石) :	1976(S51)
南北線(北24条～麻生) :	1978(S53)
東西線(白石～新さっぽろ) :	1982(S57)
東豊線(栄町～豊水すすきの) :	1988(S63)
JR 函館本線(琴似～札幌)高架化 :	1988(S63)
東豊線(豊水すすきの～福住) :	1994(H06)
JR 札沼線(八軒～新川)高架化 :	1996(H08)
東西線(琴似～宮の沢) :	1999(H11)
JR 札沼線(新琴似～あいの里教育大)複線化 :	2000(H12)
JR 札沼線(新川～新琴似)複線高架化 :	2000(H12)

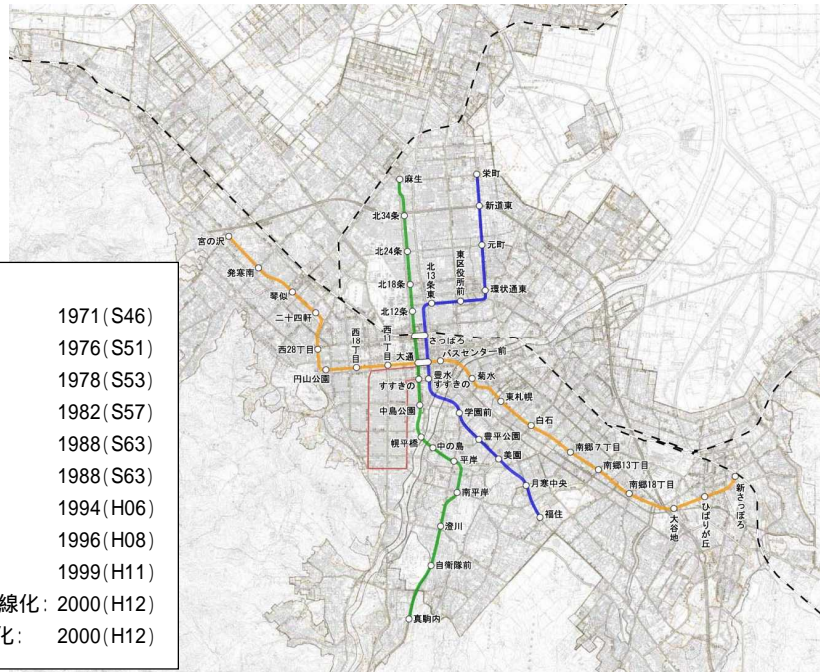
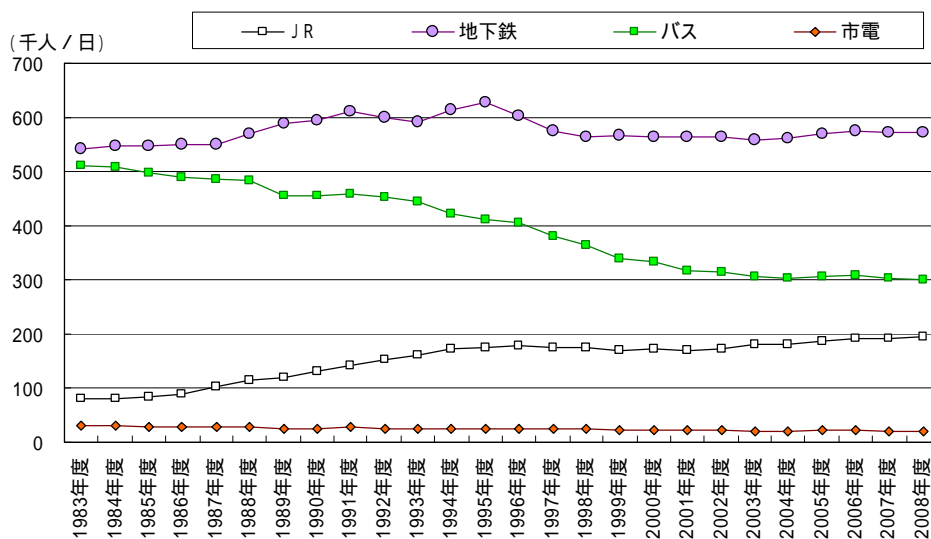


図 1-65 札幌市内の地下鉄・JR網

#### 札幌市内 機関別日平均乗車人員



資料：札幌市都市交通データブック

図 1-66 公共交通の利用者推移

(2) 鉄軌道利用の地域別傾向

都心の鉄軌道分担率 は高い。沿線によっては鉄軌道利用率が減少。

- ・ 駅沿線での鉄軌道分担率が高く、特に都心では分担率が高い。
- ・ 都心や、東豊線の南部区間（「豊水すすきの～福住」1994年整備）や東西線西区間（「琴似～宮の沢」1999年整備）で鉄軌道の利用率が上昇しているが、郊外部や南北線の南部区間など高齢化率が高い地区では利用率の減少が見られる。

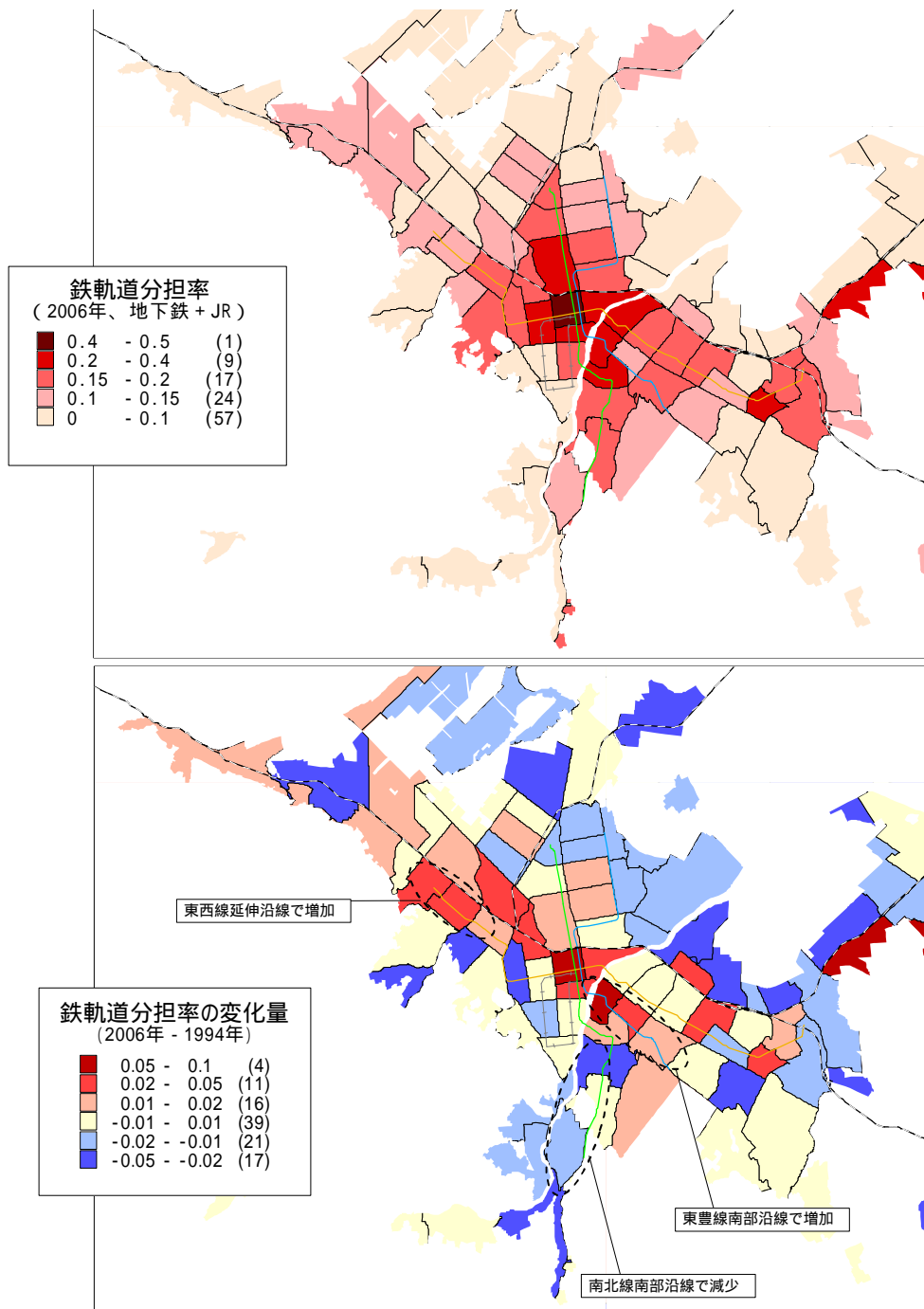


図 1-67 鉄軌道の分担率（利用率）とその変化

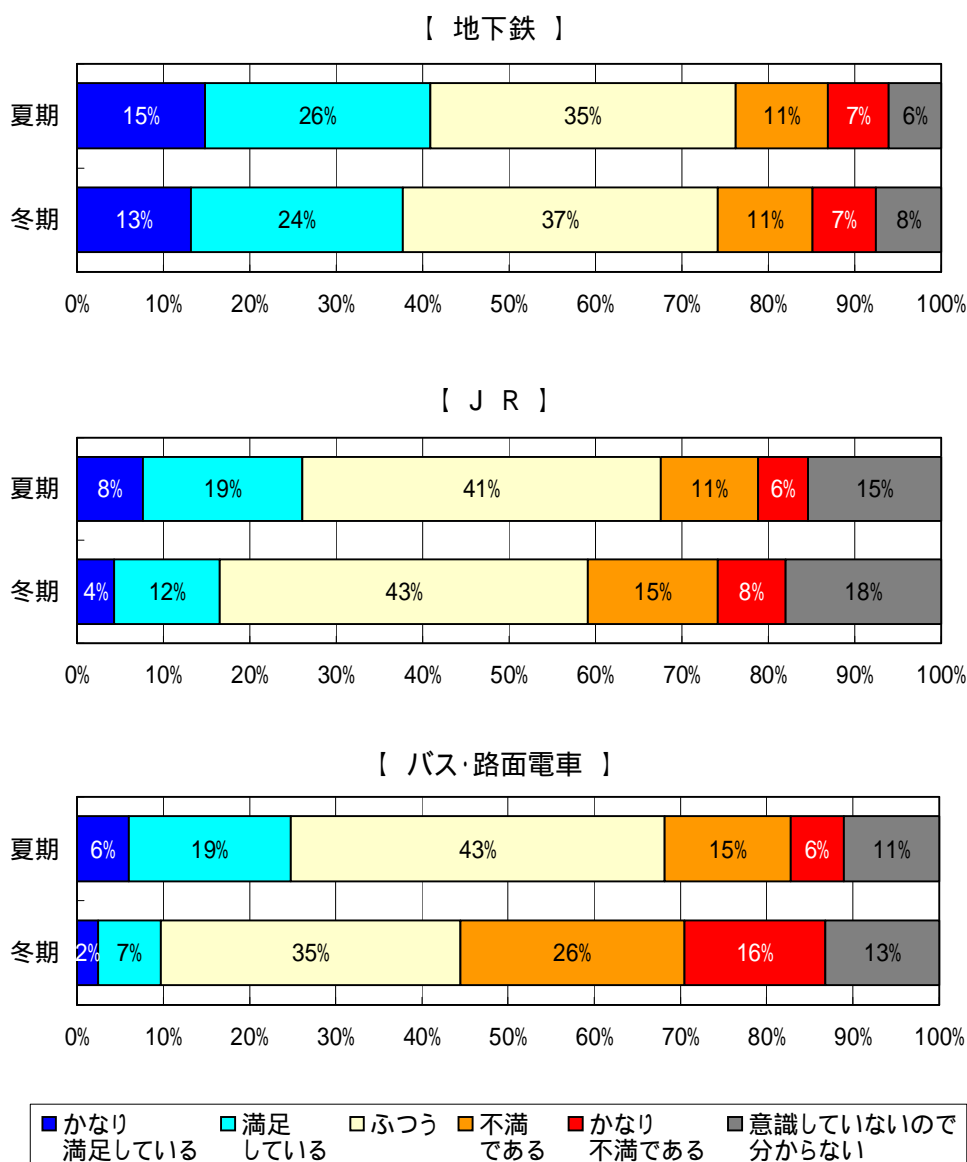
資料：道央都市圏パーソントリップ調査

分担率、交通手段分担率：ある交通手段のトリップ数が、全交通手段のトリップ数に占める割合。

### (3) 公共交通の満足度

季節に依らず地下鉄の満足度は高い。冬期のバスの満足度は低い。

- ・地下鉄、ＪＲ、バスを比較すると、季節に依らず地下鉄の満足度は高い傾向がある。
- ・バスの満足度は、夏期と冬期で大きく異なり、冬期は４割以上が「不満である」または「かなり不満である」と回答している。



資料：道央都市圏パーソントリップ調査（ライフスタイル調査、2006年）

図 1-68 居住地域の交通サービス満足度（地下鉄、ＪＲ、バス）